

高濃度 PCB 絶縁油入変圧器処理について

※

- 高濃度PCB絶縁油入変圧器は、下記のようなフローで無害化が行われる。当社は、①現地抜油(変圧器からの抜油)、②現地解体(放熱器やブッシング等付属品の取外し)を担当し、その作業を安全かつ確実に行うための「高濃度PCB絶縁油抜油装置」や解体方法を開発した。



安全かつ確実に「現地抜油」、「現地解体」作業を実施するための「高濃度PCB絶縁油抜油装置」や解体方法を当社にて開発

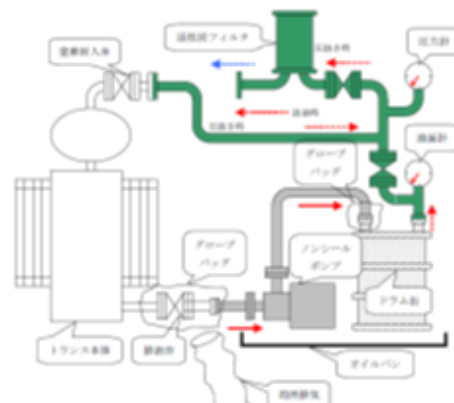
参考. 高濃度 P C B 絶縁油抜油装置について

- JESCOと共同開発
- 当該装置全5台を当社にて設計・製作（2004年）

<特徴>

- PCBを外部に拡散させずに、機器内のPCB絶縁油を回収用ドラム缶へ移送する機能を搭載。
- 万一の漏洩・拡散を防ぐため完全密閉型の作業が可能な構造となっている。また、狭小な場所でも作業できるよう、小型で可搬式となっている。
- ※接続部暴露防止（グローブバッグ）、回収用ドラム缶油面計（超音波センサーほか）ノンシールポンプ、排気部活性炭フィルターなどを搭載

高濃度 P C B 絶縁油抜油装置



※PCB（ポリ塩化ビフェニル）は、絶縁性、不燃性など優れた特性を有することから、変圧器やコンデンサ・安定器などの電気機器をはじめ幅広い用途に使用されていたが、1968年にカネミ油症事件が発生して、その毒性（生体内に容易に取り込まれ、残留性が高い。皮膚障害などの慢性毒性が認められる）が社会問題化し、1972年に製造中止となっている。